本文の無断転載を禁じます

佳作

パブリックイメージリミテッド

萩原雄太（はぎわらゆうた）

登場人物

僕

私

※便宜上、初演時の俳優のイニシャル及び名前を使用している

S＝清水（女）

Y＝横手（男）

H＝林（女）

I＝井黒（男）

M＝松原（男）

■あらすじ

２０１１年2月10日、14時41分〜46分まで、新宿駅東南口での出来事。

「僕」と「私」は新宿にいた。「僕」はアフリカの子供を救うための募金活動をしていた。といっても、熱心にやっているわけではない。ただ、流れでやっているだけだ。「私」は、友達との待ち合わせの約束を反故にされた。これからどうしようか……と暇を持て余している。2人の頭のなかには、過去の出来事や今気がかりなことが浮かんでは消える。子供の頃に喘息にかかったこと、知恵遅れの同級生を殴ったこと。

いつもの新宿の様子とは少し異なるのは、そこに通り魔の予告が出されていたからだ。

表面上には、相変わらず喧しい新宿の雑踏がある。

■凡例

「」……発言

『』……思ったこと

【】……固有名詞化・慣用句（的）な表現

◇……前の発言のトレース

{}……一般的な用法とはニュアンスが異なる単語

()……補足（発音しない）

■……この直前の音から次の台詞が挿入される

――……41分〜46分のこと

※スタンド……俳優が登場人物の代理として立っている状態

開演時間になったので、俳優たちは仕方なく舞台に登場し、一列に整列する。

井黒　パ

松原　ブ

林　リ

清水　ック

横手　イ

松原　メ〜〜〜〜〜〜（羊の鳴き真似）

清水　……ジ（無視）

林　リミテッド

全員、ちょこんと一礼する。

どこからか聞こえてくる声を反復するように

女H　にせん、11年（２０１１年）、２月、の10日の、話、です。14時、41分、です。

スタンド＝H

女Y　〔新宿〕に、〔私〕は新宿に行きました。新宿にはすごくたくさんの人がいました。歩いて、いました。若い人も、年をとった人もいました。冬、で、だったので、コート、の人がたくさんいました。あんまり派手な色のではなく、地味な、黒とか、茶色とか、そういう人ばかりでした。〔私〕は〔新宿〕に■行きました。

女I　〔私〕は、【新宿の駅の、ＪＲの、ホーム】にいました。電車を降りました。【新宿の駅の、ＪＲの、山手線のホーム】にはたくさんの人がいました。ちょうどホームの向こう側にも、電車がドアを開けたので、人がたくさん出てきました。たくさんの人が、電車に乗ったり、電車から降りたりしました。冬、なのに、あんま『寒いな』とは思いませんでした。駅員さんが「押さないで下さい」と言いました。駅員さんが「無理なご乗車はおやめ下さい」と言いました。階段がありました。３つありました。下に行くのが２つと、上に行くのが１つありました。もしかしたら、もう１つか２つあるかも知れませんでした。一番近いのは下に降りる階段で、それは、【西口の方に行くのに便利な階段】でした。【西口の方に行くのに便利な階段】は使いませんでした。それではなく、上に向かう階段を上りました。上ったのは、階段ではなく、正確には■エスカレーターでした。上、にはたくさんの人がいました。本屋がありました。お土産みたいなのを売っているお店がありました。あと、ドトールと、ちょっとオシャレな、高そうなドーナツのお店がありました。ドラッグストアも入っていました。あ、咳止めの薬を『そういえば切れてたな』と思いました。〔私〕、はたまに喘息■になりました。

女Y　南口は、わかんないですけど、10個くらい自動改札がありました。そっちの方から（出て）行ったり入ったりする人がたくさんいました。そっちに行けば小田急線とか地下鉄とかの方に行けました。南口の改札の外には花屋がありました。その横には柱があって、その柱のあたりによっかかったりしながら、携帯をいじったりして待ち合わせをしている人がたくさんいました。〔新宿■〕には人がたくさんいました。

女M　【季節の変わり目】とかに、よく喘息になりました。喘息になると、〔私〕はこの世で一人ぼっちなんだなあと感じました。【季節の変わり目】とか、冬の乾燥している時とかに、喘息になりました。いつも、夜中になりました。夜中に喘息になると、『孤独だなあ■』と感じました。

女Y　南口の改札を通り過ぎました。今の〈通り過ぎた〉っていうのは、その、〈改札を通った〉っていうことではなくて、〈改札を通らないで通り過ぎた〉という意味でした。まだ昼間なので、人はそんなにいない方でした。でも、何回か人にぶつかりそうになりました。あんまりこんなたくさんの人■がいるとこに慣れていませんでした。

女I　〔私〕は大学の時には、〔東京〕に住んでしまました。〔今〕は、地元に住んで■ます。

女Y　その日は２０１１年２月10日でした。木曜日でした。

女I　〔私〕はユミカという友達と待ち合わせをしていました。【久々に会う友達■】でした。

女M　向こうからやってくる人にちょっとぶつかりました。「あ、」と、声が出て、〔私〕は小さく会釈をしました。向こうも、同じように小さく会釈をしたような気がしました。ちゃんと見ていなかったので、本当にそうだったかは■わかりませんでした。

女I　ちょっと歩くと、埼京線とかその辺があって、その先に自動改札機が並んでいました。３つとか４つくらいの小さな改札でした。人は、あんまりこっちは使ってなくて、埼京線とか湘南新宿ラインの人とかも、こっちの、南口の方に流れてくるみたいでした。〔私〕は、また、ぶつかりました。けど、「あ」って言うだけで「すいません」とは言いませんでした。〔私〕は、この１分とかで、もう人にぶつかることに慣れてしまったみたい■でした。

女Y　今、喫煙所で、タバコに火をつけます。14時41分、■です。

女M　〔私〕、は〔新宿〕の東南口に出ました。

＊

スタンド＝M

男H　〔僕〕は、〔新宿〕に、いました。〔新宿〕、の東南口の下の広場のところにいました。東南口の階段の下の広場のところで、木があって、そこに腰掛けられるようになっていました。【タワレコとかが入ってるビル】があって、そこに

男S　は、ギャップとかシップスとかが入ってて、あとタワレコとかも入っていました。パチンコ屋がすぐ前にありました。決めてあった集合の場所は、そこの木のところでした。他にも待ち合わせっぽい人がちらほら■いた感じでした。集合は、【11時集合】でした。けれども着いたのは11時10分頃でした。急行が、乗り換えの所で失敗して、すわーっと発車して『あーっ』て、車掌さんと一瞬目が合ったような気がしました。『今日はだめだなあ』っていう、朝、一番初めに乗る電車が、目の前で発車した日は、【大抵、いろんなことがうまくいかない】ので、来たときは、あと2人が来てて、「おお」っていう『うーわ遅刻した』っていう感じではありませんでした。ていうか遅刻した〔僕〕、が言うのもあれなんですが、『え何かもうちょっとちゃんとしてもいいんじゃない？』っていう。「寒（さっぶ）いねー■」と言いました。

男H　寒いのが結構苦手だったので、〔僕〕は、かなり厚着して着膨れしていました。あと残りの2人はもう10分か15分くらいして■から来ました。

男S　ふつう、休日にするんですが、この日は「それをあえて平日にやってみよう」ということで、平日にやることになりました。〔僕〕は『平日はどうなんだろう』と、まあ（けど）『ライバルも少ないし、もしかしたら平日の方がかえって集まるん■じゃないか』。

男H　〔2011年2月10日木曜日〕でした。

スタンド＝Y

男S　二人一組で、【一人がアフリカかどっかの子どもの看板を持って、一人が募金箱を持って】っていうスタイルで、それは、【発展途上国の子どもたち】のための募金でした。募金したお金はユニセフとか赤十字とかに寄付しました。シガさんっていう上の人が、その辺をやってくれました。シガさんはお金とかにきっちりしているし、ちゃんと【いくらいくらどこそこに寄付した】って■いう明細を出してくれたりして、すごくしっかりやってる人でした。

男H　グッパーでコンビを決めて、〔僕〕はササキさんと組みました。やるのは募金箱の方をやりました。ササキさんは女の人で、あんまり絡んでない感じで（だから）『ササキさんかあ』っていう。「じゃあ、よろしくお願いします■」とシガさんが言いました。

男S　それは、NPOっていうか、そういう集まりみたいな感じでした。認可は受けていないんですけど、【目指して頑張ろう】みたいな。大学の頃に一回、そういうボランティア系のサークルに入ってて、そこはフェードアウトしちゃったんですけど、その流れでちょっと仲良くなった先輩が（に）、誘われて、「じゃあ」っていうことで。ちょうどその時、『真剣にちょっと彼女ほしい』っていう、しばらくそういうの■なかったので、『そろそろ彼女がほしいなあ』と思っていた頃でした。

男H　でも、男女比は8：2（はちにー）くらいで、しかも女子は全然戦力になる感じではなくて、その期待は見事に裏切られました。ササキさんも、戦力にならないっていうか、【ある意味戦闘力高そう】っていうか、あんまり、一般的には、あの、あんまり顔がよくないっていうか、『ブス』って、いう。でも何か自分のこと宮崎あおい系のいい女■みたいな。

男S　でも、〈平日逆に〉みたいなのは全然間違っていました。途中経過なんですけど、3時間やって300円とかでした。〔僕〕らは、募金活動をしていました。300円という数字は【募金活動をしている僕ら】という存在をかんっぜんに（完全に）否定する形となりました。それは結構【惨憺たる状況■】でした。

スタンド＝I

男S　大学の時のは、【政治的】というか、ゴリゴリ、もう【学校のやることは全部反対】みたいな、そこそこ、ちょっとかわいい子とかもいたりしたんです■けど、

男M　「普通反対だよね」

男Y　「ですよねー」

男M　「大学当局はああいうところだから」

男Y　「ですよねー」

男M　「キミ、マジで分かってるよねー」

男Y　「はい！■」

男S　みたいな空気が、の、【強制感（？）】みたいなのが〔僕〕はあんまり好きになれなくて、そもそも『え、当局って何すか』（笑）っていう、引いて。

男H　コーンポタージュの黄色い缶が自販機から「ガタッ」って音を立てて出てきたのを取って、すごく温かくて、首の所に当てると、すごい、温かいです。14時、えっと、41分■、ですね。

＊

スタンド＝H

女I　〔私〕は東南口のところの改札を出て、そこは少し広くなっていました。出るとすぐ【タワレコとかが入っているビル】がありました。ギャップとかシップスとか、あと、タワレコとかが入っていました。改札出たところの、階段■を降りました。

女Y　〔私〕、が、喘息になったのは結構小さい頃からで、おばあちゃんの家で猫を飼っていて、その猫の毛に反応してよく喘息になりました。普段からなるわけじゃないんですけど、大人になってからも体調の悪い時とかにホコリっぽい場所に行くと喘息になりました。でもそれは、【命■に関わったり、普段から病院に行ったりしなきゃなんないレベ

ル】ではなくて、市販の、咳止めの薬を飲んでしばらくすると収まりました。

スタンド＝S

（広場には）人が、平日なのに、多いみたいでした。階段は手すりで二つに別れていました。階段の、左側の方が降りる人が多かったのですが、なんとなく、{私}は右側の方から降りてまたぶつかりそうになって、スルーしました。正面の所に、木が植えられていました。何の木だかはわかりませ■んでした。そこは待ち合わせ場所によくなってました。

女H {私}は、猫の毛に反応してよく喘息になりま■した。

女M 階段を降りると、喫煙所に行きました。喫煙所はその階段の下の右にありました。右の方を登る人が多かったので『そっちは通らないほうがよかったな』と■思いました。

女H さっき、電車の、【高田馬場と新大久保の間】くらいでメールが入りました。正確にはその5分位前に、池袋あたりで入って■いたみたいでした。

女I 「いろいろあって行けない、ゴメン」というメールが入りました。ユミカからでした。ユミカは絵文字をあんまり使う人ではないんですが「ゴメン」という文字の後ろに、「汗」の絵文字が添えられていました。それで、そっけないけど、「あ、ユミカ、けっこう申し訳■なく思っているんだな」

女Y ユミカに「了解」と打って、『何か違うなあ』と思って、「わかった」と打ち直して、『でもちょっと何か冷たいんじゃないか』っていう感じて「わかったー」にしたけど、そこで一回改行をして、『あー何か入れなきゃ』っていう、{私}も絵文字入れるあれがあんまないので『えー、でも、何入れよう』って、いい感じ■の言葉が出てきませんでした。

女H 【高田馬場と新大久保の間】から、新大久保を過ぎて、{新宿}につきました。新宿についたので、ケータイを一回閉じて、電車■を降りました。

女I 『何だよ』っていう、『もうちょっと早く言ってくれてもいいじゃんか』と思いました。今日は、目的は、【ユミカと会ってぶらぶらしてご飯を一緒に食べる】だけだったので、『そしたら来た意味がなくなるじゃん■』

女M 『はあ？　もうちょっとふざけんなし』

女Y 『マジでか、うーわ、』

女H 『てか意味わかんないし』

女I 『え、ドタキャンとかありえないんだけど』

スタンド＝Y

女S 『あー、まあでもユミカ、昔からわりとそんなだよねー』

女H {目的}は友達と会うということでした。大学時代の友達

でした。大学の時は、{私}はこっちに住んでいました。会うのはユミカという子でした。授業が一緒で、グループで発表したりして、卒業してから、私は地元帰って、ユミカは実家が東京なのでフリーター■でした。

女M ユミカの彼氏さんについては全然知りませんでした。〈ユミカの彼氏さん〉は半年に1回くらい変わるので、覚えてたりしても意味、が、■ありません。

女S 『せっかく来たのに』と『2時間かけてきたのに、何だよ、特急で来たのに』と『まあでもそんな怒ってないよ』っていうニュアンスを差し挟むベストなメールの文面を考えていましたが、でも、何かユミカの、その{状況}っていう（のを）、考えると、うまい、【何かいい言葉】が見つかりません■でした。

女H 今朝、出るときとかは、『あんま、こんな日に行きたくないな』と思っていました。けど、実際に来てしまうと、『せっかく来たんだから』と『あんまそんなとんぼ返りとかはしたくないし■』と思いました。

スタンド＝M（アスタリスク後も続きで）

タバコが、一口吸って、火があまりついてなかったので、つけ直します。14時42分です。{私}■は、東南口の喫煙所にいます。

男H ＊

男Y 今、{僕}、は14時、42分■で。

男I {僕}、は{白いところ}に入らないように注意しま■した。広場のところは、地面のタイルが白いんですが、広場から繋がっている道路の歩道のところに行くと茶色になっていました。{白いところ}はＪＲかルミネかなんかの管轄で、だから、{白いところ}で入ってやると警備員さん■から「ちょっとここでは」っていうクレームが来ました。なので、{僕}、らは{白いところ}に入らず{茶色いところ}でやらなければなりませんでした。でも、ちゃんとした許可をとってないので、{茶色いところ}でも本当はダメなんですが、警備員さんに言われても歩道の{茶色いところ}なら大丈夫なので、{茶色いところ}でやりました。だから、そこに【見えない壁】というか、【白と茶色の境界線】みたいな。

男S {街頭募金}って今、少なくなってて、そういう詐欺とかがあるからで、【何に使われるかわかんない】っていう。【それなら、直接赤十字とかそういう所にするとか、コンビニのレジの所にあるのとかに（募金を）しよ■う】ということでした。でも{僕}は『ここは全然しっかりやっている方』だと思ってるんですけど『ＮＰＯとかじゃないから募金する方もためらうよな』『当然だよなー』って。

男Y 〈3時間くらいやって３００円〉とかっていうのは、わり

男I　と最低な方に入る結果で『僕のせいか』とちらっと、でも他の人も６００円とかくらいだったらしくって、そういうわけではない■ようでした。
そう……、まあそうだから、【白と茶色の境界線】みたいな。

以下、スタンドなし

男H　〔僕〕は募金活動をしていました。
男Y　あ、で、その集めたお金はユニセフとかに回されて、発展途上国の子どものために使われました。【病気を予防するためのワクチン】とか、【ストリートチルドレンとか子どもの兵士をなくすための運動】とかに使われました。井戸を掘ったりするのにも使われました。いろいろ、要するに、【外国の子ども■のため】（っていう）
男M　でも声を、出すのは、結構何回もやっても、〔僕〕は、はじめは全然恥ずかしいと感じるんだけど、でもそれも結構すぐに慣れて、10分とかであんまり恥ずかしいとかは思わなくなっちゃって、【機械的に】、声、を↑「お願いしまー」っていう■、出しました。
男Y　あーでも、寒くて『ちょっとこれは』と思って、休憩っていうか、「支障がない範囲」で抜けるのはありだったので、パチ屋のところの自販機で、コーンポタージュを買いました。１２０円でした。なんで、変な話、その〔利益〕（っていうか）、【募金が産み出した儲け】っていうのは３００円もらえたので１２０円引いて１８０円に■なりました。
男I　ササキさんが、の
男H　「募金団体あじさいです。発展途上国の子どもたちに支援をお願いしま■す」
男I　に続いて
男M　「お願いしま■ー」
男H　「１００円で５人の命が救えまーす」
男M　「お願いしま■ー」
男H　ほとんど（の人が）早足で、無視してさっさと行きました。気になった人も、その場で見るのではなく、なんか【３メートルくらい離れてから振り返る■】っていう。

ＹＭＩ（イヤホンしながら）３メートルくらい離れてから振り返る

男I　こんな■感じでした。
男S　その、〈こんな日〉なので、尚更なのかもしれませんでした。〔僕〕も、あんまり、『この場にいたくない』というか、『気持ち悪いよな』っていう、思いました。〈こんな日なんで〉っていうのは、つまり【ネット上で、通り魔の犯行予告が起こっているような■】という意味でした。
男H　ネットで犯行予告が流れていました。その予告っていうのは【２月の11日で、東南口で、起こす】ということでした。

〔今日〕は、２０１１年の、２月10日でした。それは、【３人くらいで、通行人をメッタ刺しにする】っていうような、そういうことを書いていました。わりと、新宿っていうこともあって、けっこう話題になってて『気をつけてください』的なことを（が）ツイッター上で、〔僕〕は気になって、とりあえずリツイートして、でも『明日だし、まあいいか』っていう。それって■いうのは、
男S　『こういうのは、本気でやるつもりならそういうことをネットに流したりしないだろうから大丈夫■だろう』
男H　『ていうかそもそも明日だし今日は大丈夫■だろう』
男I　とか■
男M　『自分はまあ大丈夫■だろう』
男I　みたいな。あー■だから

Ｙ３メートルくらい離れて振り返る

男Y　〔僕〕、はわりとよく「楽観的だよね」とか言われる方■でした。

＊

女S　ユミカからメールが、入ってて、それは、『来れない』っていうユミカからのものだったので、『え、どうやって返信しよう』と思い、返信をしようとしても、『全然なんていったらいいものか』で、結局【放置■】っていう
女I　でも、だから、『■何したらいいかわかんないわあたし』っていう、
女H　捕まったのは中学生で、【３人で犯行をする】とか言って、ＤＳでしかも【犯行予告】とかしちゃってしかも、何かお兄ちゃんが弟の代わりにとか、よくわかんない事件を起こしたりが、それは（この話とは）全然関係ないんですけど、２ちゃんのまとめで見たらすっごい叩かれて■ました。
女Y　だから、何でそのユミカのメールが面倒なのは（かっていうと）、直感的に『あ、これ彼氏と別れたんだろうなあ』と思ったからでした。何かー、そういう、別れたとかの機会にめぐり合ってしまうことが多くて、だいたい「いろいろあって」という人は、３人くらい、別れたっていうタイミングで、ユミカも「彼氏とあんまりうまくいってない■」って
女H　「え、そうなの？」
女S　「なんか」
女I　「あ、そうなんだ」
女M　「んー」
女S　「こないだとかでしょ」
女H　「でももう６ヶ月だし」
女M　「え、でもまだ■じゃん」
女Y　「えでも全然もうなんだ■けど」

女M　だから『多分っていうか絶対そう■なんだろうな』と思いました。

女I　それで、いろいろ返信を考えたんですが、向こうは「彼氏と別れた」って言っているわけでなくて「いろいろあって」なので、『そこは敢えてこっちから察する必要はあるのか』っていうか『その気持を汲んだ方がいいのかどうなのか■』とか。

女M　でも、別に傷つけたいわけではないので、わりとユミカ昔からそんな感じで迷惑かけたりとかデフォ（ルト）だからいいんだけどただ、『あ、いや、せっかく来たんですけど……あたし』みたいなニュアンスも、でも改行して、したところで、文字の入れる棒がずっと点滅して■いました。

女I　でも、『あー何か結局何にも買わないでグダグダな一日になりました■』っていうのは避けたいなと思いました。

女Y　でも『また、来月とかになったら、喘息が出るんだろうな■』と思いました。

女S　でも『誰でもよかったっていう感覚は、わかるなあ』と思いました。それを感じたのは、秋葉原■の時もでした。

女M　エジプト■では革命が起こっていました。

女H　「小児喘息なので、大人になるにつれて治ります」おじいちゃんの先生でした。「大人になるにつれて、体質が改善したらだんだん治るケースもありますんで、あんまり心配しすぎないでください」みたいなことでした。体質の改善の薬をもらって、しばらくずっと飲んでいました。けど、

男Y　治らないで、その〔今（２０１１年）〕に至りました。冬場はなるべく掃除をしました。「フローリングだとホコリが舞い上がるから、和室の方がいい」っていうことで、部屋探す時〔私〕のお母さんは「和室の部屋がいい」と言っていましたが、そういう部屋であんまりちゃんといいのがなくて、フローリングにカーペットを敷きました。〔私〕は、前は〔東京〕■に住んでいました。

＊

男I　〔新宿〕で、募金しながら〔僕〕、は、の（頭の中では）、小八木くんのことを考えてて、〈小八木くん〉っていうのは、普通の教室と特別学級を行ったり来たりしてる子で、知的障害っていうほどでもないんだけど、【知恵遅れ】、とかの人で、〔僕〕は、その小八木くんのことを一回だけ〔殴った〕こと、があって、すっごい怒られたんですけど、そういうテロとか、そういうのがあると〔僕〕の（頭の中にある）【小八木くんの引き出し】が■開きました。

男S　小八木くんは小学校の低学年の時に3年生の終わりまで、同じ学校でした。でも、その後に転校しました。

男Y　今日は■【２０１１年2月10日木曜日】でした。3メートルくらい離れてから振り返る人で、戻って入れてくれる人はいませんでした。そのまま、足も止めずに歩いて行きました。『足くらい止めてもいいじゃんか』『え、ビ

ラくらい貰ってくれてもよくね？』っていうか『もしも、ササキさんがもっとかわいかったら、満島ひかりみたいな人だったら、みんなもっと募金してくれるのになあ』

男H　でも、通り過ぎた人に対して、いちいちイライラすることはできないっていうか、普通に無視されるんで、目に、入ってないっていう、存在が↑僕らの、そもそも見えてないっていう、いいんです■けど

男M　でも、30分くらいして、チャラそうなホストみたいな男が２００円入れてくれました。『チャラッ■』っていうのが『申し訳ないなあ』と思いました。

男H　でも、秋葉原があったので、『全然気にしないっすよ』っていうスタンスでは■なくて。

男M　なんか前、シガさんは「募金って主張だし、演説みたいなものなんだよね」って、だから「募金活動でいくら集めたか」じゃなくて、「それよりも、そういう活動をするというか、そういう状況があるっていうことを知らせることが大事なんじゃん」

男Y　「あー」

男M　「アンテナに引っかかれば、こういう発展途上国で、苦しんでいる子どもがいるということを知ってくれれば、この状況が変わるかもしれないし」

男Y　「お■ー」

男I　シガさんは牛丼屋でバイトをしていました。夜勤で、時給は１０３０円という■ことでした。

男Y　「え、何でシガさんとか、そんなバイトしながらこういう、やってるんすか？」

男S　「あー、何でだろうね」

男S　「え、何でシガさんとか、そんなバイトしながら、こんな、金ないのにしてんすか？」

男I　「あー、何でだろうね」

男I　「え、だから、何でシガさんとか、そんなバイトとか苦労しながら、こんな意味あるかわかんないこと、金ないのにしてんすか？」

男H　「あー、何でだろうね」

男S　ホームレスがいます。木のところで、みんなが待ち合わせをするところです。女の人です。大きな荷物を持っています。重たそうではなく、慣れてる感じです。木の周りだけが人がまばら■です。〔ここ〕は〔新宿〕の東南口です。

男Y　「え、明日って、もしかしたら、ここで、何か、通り魔とか、起こんの？」

間

男M　あの、僕、コーンポタージュ（半笑い）がすごい美味しくて、僕はいつも切らさないんですけど、それに気付いたのとかってわりと最近【大学入ってから】くらいで、友達が家来るときに、コンビニで1リットルのやつを買ったら「それ買う？」みたいなリアクションをされて、『え、普通

じゃん』と思ったんですけど、家で冷蔵庫に飲みかけのコーンポタージュを発見して「またコーンポタージュだよ、」みたいなツッコミを入れてきたので、「いや、だから普通じゃん」とか普通に「そんなに普通コーンポタージュ飲まない」って「あ、え？　そうなんだ」、それから意識するようになって、『そーいえば、家でコーンポタージュ切らさないようにしているし、外でも自販機で冬とかよく電車待ちの時とか3日に一回くらいに飲んでるよな』っていう事実に気づいて、だから、【あ、自分が好きということに気づいた】っていうか、ちゃんと言うと、【他の人はそんなにコーンポタージュを好きじゃなくて、だから、相対的に僕はコーンポタージュが好きな人】っていうことになりました。

＊

女I　向こうの、パチンコ屋の歩道の方に、募金の活動のしてる人がいて、何人かでやっていました。ユミカの、でも｛私｝は■返信が。

女S　何か向こうの、募金の活動は、なんか覇気がないっていうか、『しっかりやれよ■』みたいな感じでした。

女M　それは、発展途上国の子どものための、みたいな募金でした。『寒いのに頑張るよな』と思いました。でも、全然頑張ってる感みたいなのはない感じ■なんですけど。

女H　『喘息の薬って、別に東京で買う物でもないし■なあ』

女Y　「発展途上国の子どものために支援をお願いします」女の人がいいました。誰にも、全然、その声は聞き取られてないみたいでした。結構大きな声だったんだけど、全然聞こえてないみたいで。でも『声聞こえてないけど、寒いけどあたし頑張ってます』みたいな感じを予想したら、その（私は、）結構軽くイラッときて『善意押し付けんな■よ』

女I　「１００円で、５人の子どもの命が救え■ます」

女M　「お願いしまー」

女Y　アフリカ？の、子どものポスターみたいなの、持ってる女の人とかいて、こっち見て、振り返ってる、子供■とか。

女M　『え、バイトしたほうが早いじゃん。そんな、人に求めたり』

女S　『すごい何か｛暴力■｝っていうか』

女M　「お願いしまー」

女I　って■いう、『おめー短期バイトじゃねえんだからよ』って思って。

女Y　そもそも｛私｝は、メールの返信とかが全然遅いほうで、それっていうのは、何か、相手にすごい【負荷】とかかけたらどうしようっていう。一方的に『ちょっ、おまっ』■みたいに思われるのって嫌で。

女S　『え、何、私なんか悪いことしてんの？　募金とかしないあたしは悪なの？』

女H　そう、あー何かメールって、そもそもすごい自分勝手っていうか、だと｛私｝は思って。だからメールってめんどくさい■んだなっていう。

女Y　『あーそういえば昔よくここに■ストリートミュージシャンみたいなのがいた』

女M　『あーそういえば昔よくここで愛だの何だの歌ってる人■がいた』

女H　『うぜえし』、っていう■。

女S　そういうの見て、うわって（押し付けられると）、あーもう何か自分【存在しちゃいけない人】みたいな■っていう、｛私｝■は。

＊

男M　小八木くん、は、そういう子どもだったんだけど、普段はぜんぜんいじめられてるっていう感じではありませんでした。あんま仲間とか友達というと強すぎるけど、『まあいるよね』っていう『積極的に無視はしないけど、別に絡むこともないし』くらいのポジションでした。確か、けっこう足がすごく速くて、低学年なのに8秒台とかで、小学校の頃は、運動ができるということが、ランク高くできるのに欠かせないことで、逆に言えば運動さえできれば、人として■認めてもらえました。

男S　でもマジメには｛僕｝も募金を考えてないわけじゃなくて、なんか【日本でいる罪悪感】というかはあって、だから、その｛ここ｝、じゃない人に対してもちゃんと気を遣わなきゃいけないんじゃないか的な。アフリカとかバングラデシュとかで、今、そういう状況の人っていうのはたしかにいて。｛今｝は見えてないけど、でも、｛ここ｝にはいるっていう。｛僕｝の卒論は確かそんな感じでした。

男H　「お願いしまー」

男M　でも、やる気とかはそんなある感じではないんですけど。

男I　「見えてないけど、だからといって｛無し｝ではありません」

男Y　その、｛僕｝は、昼休みとかの、終わりの時とかに、小八木くんのことを、して、何かそんな強くするっていう、そんな感じのあれではなくて、でも入ったところがよかったみたいで鼻血がつーって出て、『あれっ』ていう、テンパッて、え、『何してんだ自分』みたいに。「バゴッ」ていう、机の音が響いて、それで一気にシーンっていう、なって、すごい全然、【物音が立たない、3秒間】みたいな、長く感じて、注目が集まっちゃったので、だから｛僕｝は何か、頭を掻いて、「いや……」っていう、小声で。

3秒間黙らせる

男Y　（頭をかき）あ、なんかちょうど今、みたいな。

男H　そんで、小八木くんは保健室にいって、｛僕｝は、何か、職員室にいきました。5時間目が、なんか自習みたいにな

男I　りました。
セレブな感じの、【パーマで、色眼鏡で、メガネのつるのところがチェーンになっているセレブ】が、１００円入れてくれて、そのお金が、チャラ男よりも少なかったっていうのは全然よくて、ただなんか【孤児とか発展途上国の子どもに興味がありますわよ私（わたくし）■】みたいな。
男H　そんでまあ職員室で、会議室、みたいなところで座らされて、なんか、で、まあ怒られて。「どうしてそんなことしたんだ」みたいなことを先生が。産休で代わりの先生だったんですけど。しかも、でも親とかも、呼び出しとかになって『あ、え、そんな大事（おおごと）になるんだ』『でも、これって、小八木くんじゃなかったら、多分それは小学校のよくあるトラブル』『え、それっていうのは、その小八木くんに対する逆に差別っていうか、そういうこと？■』
男YMI　その、{今}、{新宿}で、東南口の、通り魔の犯行予告があって{僕}はそれを知ってて、募金してて、でも結果的に■それは起こらなかったので
男S　その、小八木くんは、に謝って、母親が来て、すっごい帰りの車でめちゃくちゃボッコボコに殴られたっていう。けど、別に謝るのは全然問題ではなく、１００％（パー）悪いことだったのでそれは素直に「ごめんなさい■」で
男Y　小八木くんは、それからけっこうすぐ、３年生の終わりの時に転校しました。「養護学校に転入するみたい」っていう、噂で。
男M　蓋、開けて、コーンポタージュの、一口飲んで、ちょっと熱くて舌火傷して、今14時43分、です。

＊

女S　東南口の（は）、エスカレーターがあって、器用に、ママさんたちが通って、ママさんたちは、ベビーカーをエスカレーターに斜めに乗せてました。エレベーターは、喫煙所のすぐ横にあるので、『あ、そこを避けてエスカレーターの方に行くんだろうな』と思い■、
女H　『ユミカになんていうメールを返したらいいんだろう』と、考えて、メールを開けてて、『これって、わりと多分【返さないパターン】になるんじゃないか』と思い■、
女Y　エジプト■では、革命が起こっていました。
女M　献血のゆるキャラみたいなの■が通り過ぎました。
女I　何かテレビの撮影している人がいました。
女S　『あ、そうだ』
女I　「日本は■20年後、どんな国になっていると思いますか？」
女S　『高島屋に行こう』と思いました。イケダさんが子どもが３月に生まれるということになっていました。高島屋までは甲州街道を挟んですぐの場所でした■
女Y　日本だとあんまりあれなんですけど、海外のどっかの国で、よく妊娠の、お祝いみたいな風習があるらしくて。だから、ああ、そういうギフトみたいな、買ってこう■と。14時43分で、煙草はアメスピなんで、結構長く吸えます■。
女M　{私}は、ようやく{目的}が見つかりました。
女H　「知らねーよ」
女I

＊

男Y　「うるせーバカ」と、{僕}は言いました。そのセレブに対していいました。『あ（マズった）』っていう、反射的なものでした。何に対する反射かといえば、セレブが言った「頑張ってね」ということに対する反射でした。でも、小声だったので、セレブはよく聞き取れていないみたい■でした。
男Y　その言葉を聞きとれなかったのか、セレブはニッコリと僕に微笑み■ました。
男I　話しかけたがりみたいな人はよくいて、『うぜーよ』っていう、思うんですけど、「何でそんなことしてんの」「エライですよね」とか、「今って、その戦争とかあるっぽいけど大丈夫なの？」みたいな。『そんな、俺、黒柳徹子じゃねーし■』っていう。
男S　『えーおま、ちょっ、え、今、自分関係無いことにしたでしょ。え、今完全に自分切り離したよね。他人事にしたよね。えだって、そんな切り離していいの？　安心できるの？
男S　俺に全部押し付けたよね、今、その言葉で。あとはよろしくっていう。それ、１００円で買ったよね。そんであーもう関係ないっていう。関係ないことにした。あー、はい今、そこで、気持ちよくなったっていうね。あーあー』
男M　っていう、「うるせーバカ」で■した。
男Y　セレブはニッコリと微笑み■ました。
男I　献血の、ゆるキャラみたいなのが、高島屋の方から歩いてきて、一緒の人に支えられて、エスカレーターをのぼって行きました。
{僕}は、『あれは明日、だから、血、の、準備をしとかなきゃいけな

女H　「元気な赤ちゃんを産んで下さい」って、言っちゃいけないらしいと、イケダさんは言っていました。
女H　{私}、は、『高島屋にお祝いの、買いにいこう』と思いました。
女S　それって、『元気な赤ちゃんを産んで下さい』っていうメッセージを込めてるし多分。
女Y　「元気な赤ちゃんを産んで下さい」って、言っちゃいけない……
女S　{私}は、それを思い出して、歩こうとして、足が、止まりました。
女H　『あー』
女M　木のところで、ホームレスの人がいます。女の人で、待ち合わせの人が、そこから微妙に

いんだろうな』と思いました。〈明日〉っていうのは、【２０１１年2月11日】■のことでした。

男S　その日は２０１１年２月10日でした■。〔今〕14時44分です。

男Y　〔僕〕の足元に雑誌が落ちてAKBみたいな人が南の島みたいな所でポーズみたいなのとってて、『あー、海かー』って思いました。『最近そういえば全然行ってなかったし、今年の夏は彼女できたら海とか行きたいなあ』と思いました。

女S　『あー』

清水　あの、〔今〕14時44分です。今の、この、男の人と女の人の話をしてるんですけど、この人たちは、この後少ししたら死んじゃいます。でも、それは今回はやらないし今は全然関係ないんですけど、とりあえず、ちょっと後半に向けて一息入れる感じで、一瞬こっちも水飲んだりするんで、ちょっと力抜いてリラックスして頂いて。あ、15秒くらいしたら戻ります。

舞台空虚

距離をとっています。その周りに近づけないので【邪魔】になっています。〔ここ〕は〔新宿〕の東南口■です。

井黒　新宿で、通り魔が予告されていました■。

横手　それは、実際には起こりませんでした。

林　〔今〕14時44分です

井黒　あ、で、続けるとー、〔今〕14時44分■で

女H　「あ、へー、あ、え、うそマジで■!?　おめでとー!!」

女S　イケダさんは↑その子どもが生まれるっていう、デキ婚で半年前に結婚して、予定日は3月中旬だったので9ヶ月とかで、だからもう結構お腹は大きくなってたはずなんですけど、〔私〕があったときは去年の年末とかだったんで、そこまでっていう感じではなくて。イケダさんはデキ婚で、去年の末までは一緒に働いていました。苗字は前は秋元で、でも池田に慣れるために、一時期から意識してずっと「イケダさんイケダさん」「やめてよ」って。イケダさんはよく一緒にお昼行くと、「本当、不思議。だって、ここにいるんだよ、すごくない？　それって。だって、自分の中にもうひとりいるとか、ベタだけど不思議でー、いるんだなー■って」

女M　木のところで、ホームレスの人がいます。女の人で、待ち合わせの人が、そこから微妙に距離をとっています。その周りに近づけないので【邪魔】になっています。〔ここ〕は〔新宿〕の東南口■です。

女H　高島屋、の、バラの花の包装紙でペタペタ貼る遊びが好きで、その（私の）、お母さんがよく破れないように丁寧に包装紙をとって、あとで、〔私〕が、〈包装紙で花を切りとって、ペタペタ貼る遊び■〉ができるようにしてくれました。

女Y　「それでね、産婦人科に行くんだけどー、聞いて、ちょっと」

女S　「あ、うん、」

女Y　「なんかねー、そのママ友じゃないけど、産婦人科って情報交換するからわりと仲良くなって。その聞いた話なんだけど」

女H　「あ、うん」

女Y　「あんま今、『元気な赤ちゃんを産んで下さい』とかって、言うのまずいみたいで」

女I　「あ、へー」

女Y　「うん、そうだからそういうのって『元気じゃない子供もいるよね』みたいな配慮なんだと思うんだけど」

女H　「あ、へー」

女Y　「『あーそうなんだ』って結構意外で。挨拶みたいなものだと思ってたからあたし、全然気にしたことなかったし、『あーでも言われてみればでもまあそうなんだ』っていう」

女I　「へー」

女M　イケダさんは12月いっぱいで仕事をやめました。「産休でもよかったけど、多分、しばらくちゃんと子育てをしたい■から」

女Y　でも、だから、けっこうその出産とかにリアルに直面してるイケダさんに対して、その『元気な赤ちゃんを産んで下さい』っていう気持ちでそういう送ってもいいのかっていうのが私の足を止めて。まあ今日じゃなくても別にいいしっていう、生まれてからでいいじゃんっていう。でも、その気持を伝えるなら、〔今〕■のこの勢いというかタイ

女S　ミングって。
ユミカの、もう、待ち合わせの時間になってるので、〈返さない〉というのは、それはそれで【怒っているアピール】になる気がして、『や、でもそこまでじゃないし、そういう捉え方はされたくないし』なので、早く送り返したいと思っていたんだけど【私】は、いかんせん、この「わかったー」の先っていうのが。

＊

男M　あの、で。【僕】なんですけど。【僕】は、「ごめんなさい」と言いました。保健室で、とりあえず鼻血が収まって、みんな自習とかしてる時間で、職員室の会議室みたいなところで、小八木くんに、謝りました。小八木くんは「うん」って小さくうなづきました。先生は「仲直りだからね」と言いました。『ていうか、そもそも仲違いしていたわけでは全然なかったんですけど』でもそれは■別にいいんですけど。

男Y　エスカレーターの下の、横の喫煙所のところに、女の人がいて『暇そうだなあ』っていう感じの『なんも考えてないんだろーなあいつ』『ああいうのが世の中を悪くする■』

男I　「小八木くんの気持ちを考えなさい」

男I　「はい」

男I　「いきなりぶたれたらどういう気持がする？」

男I　「はい」

男I　「どういう気持がする■の？」

男M　『いや、僕は小八木くんじゃないのでわかんないん■ですけど』

男I　「嫌な……気持ち……」

男I　「うん■」

男S　『え、ていうか、いるんだから、聞けばいいじゃない■ですか』

男I　「どんな■気持ちがしましたか？」

男M　ていう■

男S　『小八木くんに■』

男H　『僕じゃな■くて』

男I　「はい」

男I　「何でそんなことしたの」

男I　「あー■」

男H　『あー■』

男I　「何で、そんなことしたの■」

男M　『何で、そんな、ことを、したの』

男Y　『え、お前とか全然アフリカとかそういう子どもとか想像したこととかないでしょ。【ここ】じゃない場所のことなんて全然知らないでしょ』

男S　あー■

男H　（あ）の、【僕】は、何か、だから、その時に何を言うっていうか、『何でっていうことで、答えられんのか』っていう、

男I　このことっていうのは■。それは、だから、【僕】は、答えられませんでした。

男I　「むかついた」「むしゃくしゃした」「注目集めたい」「調子に乗ってしまいました」でも全然いや、それ「何でっていうか……」頭の、後ろを、■掻きながら。

男H　「発展途上国の子どもたちにご支援をお願いしまーす」とササキさんが言いました。

男S　「お願いしまー」

男M　「１００円で5人の子どもの命が救えます」

男S　「お願いしまー」

男Y　【僕】は、海外は、大学の時にグアムと韓国にしか行ったことがないから、そういうアフリカとかバングラデシュの子どもとかが、正直なところ全然よくわかりませんでした。でも……あ、今、そうだから、【今】は、14時44分で、コーンポタージュを飲んでいるんですけど、あの……、ちょっと嘘というか、あって、この【今】のって1本目ではなく、実はこれは、3本目で、だから実質今のところつまり３６０円マイナスで、集めたのが３００円なんでマイナス60円っていう、いや、何か（それを）言うのが（はばかられたと言うか）……■。

＊

女S　『え、言ってもいいじゃん全然、■そんなこと』

女H　【私】がだから想像すると、やっぱり、それを、「元気な赤ちゃんを産んで下さい」っていうのがなしな理由が■わかんなくて

女M　『え、だって、え、何で？』っていう、■全然（わかんない）。

女I　パチンコ屋の歩道の方の所で、募金をしている人が『頑張ってるなあ』。でもそれが、でも、【私】には何か軽くイラッとして■

女S　「善意押し付けんなよ」

女I　■っていう。

女M　でもそれっていうのは全然想像でしかなくて、わかんないんで、もし、イケダさんの子どもが、そういう障害を持ってたりしてたら、『本当にそういうことを言えんのか』『責任とかとれんのか』『え、流産とかだったら』っていう■、その、【私】は。

女H　【喘息で、どうしようもなくなっている時】って、丸まりながら←息できないから、気管支が、「ヒュー、ヒュー」という音を聞いてて、気管支が「ヒュー、ヒュー」いう音を聞きながら、ただこの症状が収まるのを待ちながら、『早く開けないかなあ、夜■』っていう、【私】は。

女S　いつも、それは【夜】でした。夜、寝た後にやってきました。夜寝た後に、目を覚まして『あーなんかヤバイかも』って思ったらもう遅くて、咳止めを飲んでも必ずやって来て、で、それから1時間くらい、ずっと気管支が「ヒュー、ヒュー」と言ってる■っていう、【私】は。

女H　必ず1時間くらいしたら収まりました。けど、その1時間はとても長いものでした。何か、その時は、〔世界〕みたいなのがばーって広がって、何か自分がどんどん小さくなって、けど、〈ヒューヒューの時〉ってすごい（世界が）広くて、その中で（あたしが）いるポジションってほんとにすっごく微妙なこの辺とかしか全然なくて、しかも、誰ともそんなことは共有■できなくて。

女I　エジプト■では革命が起こっていました。

女H　だから、そのとき、〔私〕は、「大丈夫だよ」ってお母さんに言われることがとても嬉しか■ったんです。

女S　〈ヒューヒューの時〉

女H　お母さんは、背中をさすってくれました。小さい頃は同じ部屋で寝てて、でもそうなって、「お母さん」って呼ぶと、わざわざ起き上がって「大丈夫だよ」と言いながら背中をさすってくれました。その「大丈夫だよ」っていう、それが、その一人ぼっちとかに直面してる「お母さん」って呼ぶ私には〔安心〕して、いることができる言葉で、だからそれがすごく嬉しくって、「大丈夫だよ■」っていう、

女S　「ヒュー、ヒュー」

女Y　「大丈夫だよ」

女S　「ヒュー、ヒュー」

女Y　「大丈夫だよ」

女S　「ヒュー、ヒュー」

女Y　……（大丈夫だよ）

女S　「ヒュー、ヒュー」

女Y　……（大丈夫だよ）

女H　いつの間にか〔安心〕■して眠っていました。

＊

男I　殺すんだったら〔僕〕が、明日、誰を殺すだろうかっていう。さっきからあっちによっかかってる大学生みたいなの■は、

男Y　「あー殺すかもしれない」

男I　OLっぽい、ロングのメガネの■は、

男Y　「あー殺すかもしれない」

男I　リーマンで、確実に営業サボりみたいなの■は

男Y　「あー殺すかもしれない」

男I　高校生が、カップルでマフラー■（巻いてるの）

男Y　「殺■す」

男M　コーンポタージュでー、の。あ、あのー、100円で、5人の子どもの命が救えるっていうことでーただ、僕が120円のコーンポタージュを買うことが、つまり6人の子どもの命を奪うことになって、今、コーンポタージュが3缶で、18人なんで、18人の（命を奪う）。でもやっぱ、コーンポタージュが暖かいし美味しいしっていう

男I　喫煙所のケータイ見てる女

男Y　……

男Y　エジプトでは革命が起こっていました。25万人が広場に集まって■ました。

男H　前、秋葉原で7人が殺されるっていう事件がありました。10人が負傷しました。捕まったのは25才の冴えない感じの■男でした。

男S　7人なので、金額にすると140円です。

＊

女S　明日、もし起こったら、〔私〕は、テレビとかで見て、あ、あそこだって。昨日行ったって。昨日の、あれ、もしあの時間に起こってたら、っていう、【身の毛のよだつ思い】とかで、【無関係では多分いられない】【あー何か関わっちゃった】それだけで、もしかしたら泣いてしまうでしょう。【死んじゃった人達と何が違うんだあたしは】っていう、思うでしょう。何もできないのに【何か自分にもできたんじゃないか】思うでしょう。ただ、明日それは起こらな■かったっていう。

女I　イケダさんは、よくお腹をなでて■ました。

女H　小学校の3年生の夏でした■。

女M　喘息になりました。真夜中のことでした。いつものことでした。でも■つらいことでした。

女Y　目が痒くなりました。喉の奥の下のほうがだんだんと閉められていくような気がしました。ヒューヒューと音がし始めました。だんだんと呼吸が辛くなってきました。痒くなってきました。胸の真ん中をかきました。背中をかきました。本当にかきたいのは皮膚の内側でした。ヒューヒューが激しく■なってきました。

女S　それは真夜中でした■。

女Y　痒くなってきました。鳥肌が立ってきました。息ができなくなってきました。寝ていられませんでした。うずくまらずにはいられませんでした。〔世界〕とかがだんだん広くなってきました。私は一人ぼっちを感じました。「お母さん■」と言いました。

女H　隣に寝ていたお母さんは背中をさすってくれました。起き上がって、私の背中をさすってくれました。「大丈夫だよ」お母さんはいいました。でも全然それは治りませんでした。いつものことでした。でも、私はすごくもう息ができなくなりました。「大丈夫だよ」とお母さんはいいました。

女I　「大丈夫だよ」とお母さんは背中をさすりました。それは真夜中でした。全然、私のヒューヒューは治りません■でした。

女S　「大丈夫じゃないじゃん!!」

女I　広い家に引っ越しました。4年生の春でした。私は自分の部屋で眠るようになりました。お母さんとは別の部屋でした。もう、「大丈夫だよ」と言ってくれる人はい■なくなりました。

女H　私は一人で眠るようになりました。一人でヒューヒューと

女I　気管支を鳴らしました。
それは、いつも真夜中でした。

＊

男S　■『何で』
男Y　あー
男I　■『あなたは』
男M　あー
男I　■『こういう』
男Y　あー
男H　■『ことを』
男S　あー
男M　■『したんで』
男I　あー
男Y　■『しょうか？』
男S　あー■
男H　っていう■か
男I　「ごめんなさい」本当に悪いことだと思っています。それは本当です。けど、だから、何でかっていう、言ったら、全部なんか違うっていうか、「わかりません■」とかっていうことになりました。
男S　小八木くんは何を言ってほしかった■んでしょうか？
男M　ていうか、正確に言おうとすればするほど、全然ずれてきて、もう、その、わかるんですけど［僕］は、ほんとにごめんなさいと思ってるんで、逆にそれホントただの身勝手ですけど、［僕］がちゃんと言おうとすれば
男H　［わかりません］
男Y　小八木くんは、その年の3月に転校しました。養護学校に転校するらしいっていう、噂で。

＊

女I　年末の納会がイケダさんのお別れ会兼みたいな感じになって、支店長が「いろいろ大変だと思うけど」と言ってから、「元気なお子さんを産んで下さい」と言いました。それで、みんなで拍手をして、「じゃあ食べましょうか」っていう事に■なりました。
女H　募金の、女の人が「5人の命が100円で救えます」と言っていました。そういうワクチンみたいなのになるっていうことでした。アフリカの子どもみたいなのが、こっち向いて見てるポスターみたいなのがありました。［私］は、知らない誰かの命を奪っているような気持ちにさせられ■ました。
女M　『ていうか■、だからほんと善意押し付けんなよ』
女I　『支店長はイケダさんの子どもが、障害者だったらどうするんですか？』と思いました。『え、死産とかだったら、どう責任とるんですか？』

女S　『ホント、そんな予告とかする奴、死ねよ』、と思いました。『死刑になるんだから、自殺してよ、マジで』本当に、そういう人は迷惑なだけでした。『勝手に死んでくれれば全然迷惑がかかんないのに、死ぬときに迷惑かけるとか、意味分かんねーし■』
女M　『っていうか、ユミカだって、何であたしが困ってんのかとか、何か馬鹿馬鹿しくなって、えだって約束破ったのそっちじゃん■』
女Y　『あー、だから、別にそういう放置とかでもいいのかもう、それでいいのか■』
女H　ベビーカーのお母さんたちが通りすぎて行きました。喫煙所を避けて、ベビーカーを器用にエスカレーター■に斜めに乗せてました。
女I　『あーもうだから全然そんなのあたしとかかんけー（関係）ないし』

短い間

女S　お母さんはお腹をなでました。そこに、子どもがいました。『将来はどんな子どもに育つんだろう』と思いました。つわりが酷かったかもしれませんでした。大きなお腹の写真を撮ったでしょう。「今蹴った」と、はしゃいだでしょう。希望にあふれた未来を描いていたでしょう。「元気な赤ちゃんを産んでね」と、産婦人科の看護師さんに言われたでしょう。彼が生まれると、たくさんの人が祝福したでしょう■。
女Y　彼は、15年後に犯罪者になって、殺人予告の容疑で捕まりまし■た。
女I　明日雪が降るでしょう■。
女M　明日新宿で通り魔事件が起こる、で、しょう■。

＊

男I／女H　ホームレスが↑女の、広場のところにいました。【邪魔】になっていました。ふっと、そのホームレスは空を見上げました。何か、ボーッと見てるっていうか、ちゃんと、見てました。僕／私もつられて見上げました。何か、青空でした。僕／私は、『なんもないじゃん』と思いました。けど、何か、見上げて、『ああ、いいなあ』と思いました。何か、青空でした。20、11年の、2月、10日、でした。【街頭ビジョン】■。

＊

S　2時のニュースです。25万人あまりの反ムバラク陣営がカイロ中心部にあるタハリール広場に集結しているエジプトでは、現在も混乱状態が続いています。この大規模な混乱を受け、本日夜、ムバラク大統領による会見が行われると

の情報が入って来ました。なお、この会見の内容について、一部では、ムバラク大統領の退陣表明が行われるのではないかという見方も出てきています。なお、この大規模集会を受けて、当局はこれまでに中心人物と見られる複数の人間を拘束。鎮圧に乗り出しているものの、facebookやtwitterなどのSNSを介して情報をやりとしている集会参加者の活動は、中心人物を捕らえたところで縮小することはありません。チュニジアから始まり、エジプトに飛び火した民主化の動き。今後は、40年以上にわたってカダフィ大佐による独裁政権が続くリビアなどへもこの動きが波及していくという見方が強まっています。なお、新宿の通り魔予告は起こりませんでした。以上、20、11年、2月、10日、の、2時、のニュースでした。

男H「あ、ササキさん」
男M「あ、うん」
男Y「何か、エジプトとかで今、革命とか起こってるって、みたいですよね」
男M「うん」
男S「あ、何か、フェイスブックとか使ってるらしいですね。すごいっすよね、フェイスブック」
男M「あ、うん」

＊

男I「あ、でも、エジプトとかってあれ、アフリカですよね」
男M「うん」
男H「あ、でもこれって、募金って、え、エジプトとかでも使われるんですか？」
男M「いーや」
男I「あー」
男M「わかんないけど、多分」
男M「え、あ、そうなんだ」
男Y「あ、だって、アフリカ広いし」
男M「あー、そうっすよね」
男I「うん、広いよ、アフリカ」
男M「あー」
男S「エジプトとかは大丈夫なんじゃないの。孤児とかは」
男M「あー、孤児とか」
男H「わかんないけど」
男M「あー、広いっすもんね」
男Y「あと、ストリートチルドレンとかそういう」
男M「あーストリート■チルドレンとか」
男S「あのアフリカとかバングラディシュの子どもたちとかって、でもホント結構どうでもいい存在で、だって見たこともないから、全然リアルじゃない■っていうか」
男S「え、栄養失調とかで死ぬって、それどんな感じなんですかね■？」
男I「いや、聞かないですけど。

男Y「お腹、ぷっくりして、そんで、バーンって弾けるみたいな感じなんですかね」
男I「いや、聞かないですけど。
男H■世界中で、貧困とかが原因で死ぬ子どもは一日結構数万人とかいるらしいんですけど、でも明日、新宿で10人くらいの人が通り魔によって殺されるかもしれなくて、どっちが大事っていったらやっぱりそっち（新宿）なんで■、{僕}は。
男M「あたし」
男I「はい」
男M「彼氏が、こういう募金とか、やめれば、って。意味ないじゃんっていう。え、だってお前普段、そんな気にしてないじゃん。あれって、結構自己満とかなんでしょって。そんなんだったら、普通に仕事して、募金とかに回したほうがいいんじゃないの■？　っていう」
男I「『あ、ササキさん彼氏いる■んだ』
男M「それが原因じゃないんだけど、それで、ケンカして別れるかなっていう。『あ、そう思ってたんだ。あ■、何かそんな感じだったんだ』ひどくない？　ひどいよね？」
男I「『あー、その情報すっげーどうでもいいんだけ■ど』
男Y『誰でもよかった』と思いました。その、アフリカでもバングラディシュでもどこでも。けど、それってすごく身勝手なことで、『え、そんな身勝手に募金■とかって、いいのか』
男I（ゆっくり）『なんで、あなたは、小八木くんの、ことを、殴ったんですか？』
男H{僕}は、{今}、新宿の東南口で、コーンポタージュの3缶目を飲んでいます。14時45分です。あと1分で終わります。

＊

女S あー革命{今}起こってるんだっていう、{私}、は、{今}、14時、45分です。あと、1分です■。
女Y{新宿}、には、明日、通り魔予告があって、でも『まあ自分は大丈夫だろ多分』みたいな変な根拠のない自信がありつつ、それよりもとっとユミカにメール
女Y「え、でもイケダさんはなんて思うの？」
女Y って聞いたら、
女Y「うーん」って■いう、
女I「その時になってみなきゃわかんないよ」
女I「その時って？　え、今じゃないの？」
女I「あ、うん、まあそうなんだけど」
女S「え、じゃあわかんじゃん」
女S「あーまー生まれた時とか」
女S「え、そっから『元気な赤ちゃんを』って言われても遅くない？」
女M「わかんないけど」

女M「え、そうじゃん」
女M「なんかね、」
女I「いや、やっぱり不安とかもあるし」
女I「わかんないし、自分だけど他人だし、お腹の中とかは」
女I「でも、だから、生まれてからも、ずっと別に不安とかなくなるわけじゃないじゃん」
女I「あー」
女I「生まれたからハイおしまいじゃないし。不安とかもそっから■だし」
女H〈不安〉だからすごく泣きました。夜中、ひとりで、すごく泣いて、でもそれは息苦しいのが辛いからじゃなくて、息苦しいのがすごく寂しいからで、『みんな、何でそんな平気で寝ていられるの?』『何で私は眠れないの?』『どうして一人ぼっちにしたの?』『私を、の、ことを■何で無視してられんの?』『[世界]!』っていう。
女I その日は【2011年2月10日】で、[今]は14時45分です。
男M「わー■!!」
男Y っていう、大声で叫ぶ人がいて、すげーびっくりしてほとんど全員が振り返って、「キタ!」振り返って、僕も。「あ、遂に」、コーンポタージュ持ちながらポケットの入ってたケータイ■を出して、「あ、え、どこ」
女H みんな一斉に声のする方に振り向きます。私も振り向きます。身体が硬くなります。心拍数が上がります。[そこ]を探します。ナイフで、刺されている、三人組の男がいる
女I そこを■探します。
けど、[そこ]は、ホームレスの、女の人の叫び声です。さっきの、女の、気が狂ったホームレスが叫んだだけです。結構すげー【最低なこと】言う■んですけど……、
男M [僕]
男S 正直、それが、何か、がっかりっていうか。ワクワクして、
男H しまって、[僕]は
女Y [私]は【残念に思って】いました。[私]は、その叫び声を聞いて[ワクワク]して、それが、起こることを、[私]は[期待]■して。
男M ケータイが、手の、ポケットにしまいま■す。
男I 多分、写メ取って、ツイッターに上げようと、その【奇跡の瞬間】みたいなのを■
男H [共有]しようとしているっていう■。
女Y 頭のおかしいホームレスは去って行きます

＊

男S「募金しないのー?」と小学生くらいの子どもが母親に聞いていました。通りすぎて、子どもはこっちを振り返りました。母親は無視したみたいで、こっちを向くことも■ありませんでした。
男Y ササキさんの持ってる看板のには、ちょうどそのくらいの男の子が書かれて■いました。

男I 通りすぎて[白い所]に入っていった子どもと目があって、仕方なく、こう、ちょっと顔を綻ばせたら、子ども振り返っていってしまったので、『あ、なんか今、俺すげーせつねー』■っていう。
男H こいつと、アフリカの子どもと、何が変わる■んだっつー
男Y コーンポタージュが3缶で360円で、募金で、僕の箱に集まったお金が300円とかで、しかも、電車賃とか、考慮に入れてないんで。一人20円なんで、15人救って、18人殺して、でも[僕]はアフリカとかの子どものこととかも考えてて
男S「あ、え、僕、何してん■でしょう」
男H『いや、慣れてるんですけど、やっぱり無視は、されたくないんです。こっちの勝手なあれかもしんないけど、だからあれですけどだって、あなたの子どもと同じ年齢の子どもが、[今]死んで■るんですよ。ねえ!』
男M「え、あ、はい。すいません。あ、すいません■。あー、あ、あー、あー……」
男Y その行っちゃった子どもを見てたら、僕は、いつの間にか、[茶色の所]から[白い所]、に少しだけ、入っていました。それで、警備員さんに怒られました。

＊

女Y（心のなかに）おめでとうのあれがどうしてもあるので、[私]は、イケダさんに。ただ、でも、それは（を）、伝えるのは、[悪]なのかも、伝えてしまったら、イケダさんを傷つけてしまうかもしれませんでした。意外とイケダさんは気にしいなので、だから多分「ありがとう」とか言ってくれるんだろうけど、でも■っていう。
女H その、【おめでとうとか言いたいのに言っちゃいけない】、っていう、■のは、
女M「あーだから、そっか■」
女I 喘息の時に、誰かに「大丈夫だよ」と言ってほしいなあと
女Y 思っていました。背中をさすってもらって、いつの間にか眠りについてて、もう、「ヒュー、ヒュー」の息は治■っていて。小学校4年生の頃でした。
女S『高島屋に、私は、行こう』って、で、『イケダさんの、お祝いの、男の子向けの何か、わかんないけど、買おう』と思いました。絶対に、出産の前に渡そうと思いました。『元気な赤ちゃんを産んで下さい』と思いました。でも元気じゃなくてもいいと思っていました。もしかしたら元気とかじゃないのかもしれなくて、でもそれはわかんなくて[元気]っていうのは、だから、言葉だけの話で、それは、どちらでも構わなくて、ただその〈元気な〉っていうのが、『いいなあ』と思いました。私は、「元気な赤ちゃんが生まれるように」っていう、ちゃんと、伝えたいっていうのはすごいだから[身勝手]なん■だけど
[私]は、それを[言いたい]って■いう。

女H　元気な赤ちゃんでなくても、全然よくて、私は、ただ、それを言いたい、っていう、伝えたいっていう、その気持は、ただの、{私}のわがまま、で、す、が、それは、（イケダさんに）向けて、それは{共有}したら、「元気な赤ちゃんを産んで下さい■」

女Y　{私}の{わがまま■}を{共有}してもらう、

女I　っていう、こと、■だけど

女M　その{わがまま}っていう、■のを、

女Y　あ、っていうだからケータイが、を、メールで■

女M　「わかったー」

女I　の後に

女H　「大丈夫だよ■」

女Y　と打って、ユミカに送信しました

女I　明日、雪が降るでしょう■。

女M　明日、通り魔事件が起こるでしょう■。

女S　イケダさんの子供は3月に生まれるでしょう■。

女H　煙草を捨てます。私、は、高島屋の方に歩き出します。イケダさんの、プレゼントを買いに行き■ます。

女S　「元気な赤ちゃんを産んで下さい」と、{私}は、イケダさんに伝えようと思いました。

女H　それで……（いい言葉が見つからない）、伝えます■。

女S　それは、とても{怖い}けど{嬉しい}ことです。

女H　{私}は、{募金}をしました。

スタンド＝S、募金する
スタンド＝Y受け取る

男M　「ありがとございまー」

男I　と、言いました。

女S　「ヒューー、ヒューー、ヒューー……」

女Y　その日は２０１１年の、２月の10日でした。{今}、14時46分です。

横手　それでは

井黒　パ

松原　ブ

林　リ

清水　ック

横手　イ

松原　メ〜〜〜〜〜〜〜（羊の鳴き真似）

清水　……ジ（無視）

林　リミテッド

井黒　始めます

暗転

明転

男と女の死体（男＝松原、女＝林）

周りには佇む3人。泣くこともしないで喪に服している。

清水・井黒　２０１１年2月10日木曜日でした。私／僕は新宿にいました。

横手　終わりです。

暗転

了